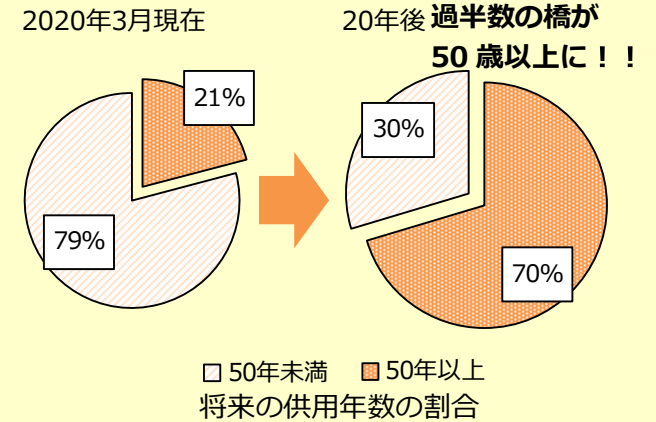


彦根市の橋の長寿命化修繕計画

はじめに

彦根市が管理する橋は、2020年現在で459橋（橋長2m以上）あります。多くの橋が1980年代に架設されているため、20年後には、459橋の過半数が供用年数50年以上となります。供用年月が経ち、年々傷んでいく橋の安全・安心を確保するためには、多額のコストがかかります。そこで、彦根市では、費用負担の抑制を図りながら、計画的かつ効率的に橋を維持管理するために、『橋の長寿命化修繕計画』を策定しました。

長寿命化修繕計画では、橋の損傷が大きくなってから補修する従来の管理方法から、損傷が小さいうちに計画的に補修する管理方法に見直します。損傷が小さいうちに計画的に補修することで、橋の管理費用の抑制を図るとともに、橋を健全な状態に保ち、市民の皆さんの安心・安全を確保します。



橋の種類と点検

彦根市には、コンクリート橋や鋼橋があります。それらは小ささまざまですが、どれも私たちの生活を支えています。橋を健全な状態に保つためには、損傷の早期発見と早期補修が不可欠です。彦根市では、定期的な点検で、橋の下など細かなところまで点検し、損傷状態を把握しています。



コンクリート部分の損傷
コンクリートが剥がれ、中の鉄筋がむき出しになっています。



鋼部分の損傷
橋の下に水が溜まって、橋を支える部品がさびてしまっています。

計画の効果

今後70年間の橋の補修費用を比較すると、従来の管理方法が216億円、計画的な管理方法が51億円の修繕費となり、計画的に補修することで165億円の削減効果があります。

定期点検を通して橋の状態を把握するとともに、損傷が小さいうちに補修するので、橋を健全な状態に保ち、長い間、安心・安全に利用することができます。



補修の順番
補修は、橋の損傷状態と利用状況を考慮して順番に行っていきます。
例えば、災害時に救急車両が使う道路にある橋や規模が大きい橋は優先的に補修します。

今後の方針

橋を補修するとともに、定期点検を継続し、橋の安全性確保に努めます。定期点検の結果や補修済みの橋梁の記録を蓄積することで計画の更なる精度向上を目指します。

意見聴取した学識経験者

この計画は、橋のマネジメントの専門家として立命館大学 理工学部 野阪克義 教授 に助言を頂いております。